



CLUB BULLETIN

R. I. 第 2530 地区

いわき勿来ロータリー・クラブ

会長 高萩 勝利
幹事 富澤 藤利
SAA 清水 信弘
会報小委員長 川口登志雄

例会日 毎週水曜日 (12:30 ~ 13:30) 例会場 ホテルミドリ
事務所 いわき市植田町中央一丁目 6 番地の 9 号 千 974 - 8261 ホテルミドリ内 TEL0246 - 62 - 3737

第 2487 回 例会 平成 25 年 1 月 16 日 (水・晴)

2012~2013 年国際ロータリーのテーマ

会員卓話

遠藤 嘉一 会員

ロータリーソング

～今月はロータリー理解推進月間です～

4 つのテスト
後藤 泰治 会員



◎会長報告 - 高萩勝利会長



皆さん、今日は。今週、来週と寒くなると予報が出ております。また、20 日の日曜日は大寒ですので暦通りの寒い日が続きます。そこで健康管理には十分気を付けて過ごしたいと思っています。皆様も宜しくお願いします。会長報告は幹事報告とダブるといけませんので以上で終了。

◎幹事報告 - 富澤藤利幹事



・1 月 9 日に行われた理事会の報告をします。内容は会員数の増強についてと次年度第 2530 地区の組織表の承認でした。会員増強については候補者数名が上っており個別に訪問することになっています。また、組織表も無事承認されました。これを受けて 2 月 9 日次期地区研修セミナーが小名浜オーシャンホテルで行われます。
・職業奉仕委員会第 2 回セミナー案内が届いております。1 月 26 日(出)に郡山で 13 時より開催されます。高萩会長出席予定です。

・ハイライト米山 154 号という資料が届いておりますので回覧中です。

◎各委員会報告

◇出席委員会 - 高木小委員長

本日の出席状況は下記の通りです。なお、本日は出席奨励賞を差し上げたいと思います。榎田会員、遠藤会員、本間会員、秋山会員、荒川清会員の方へどうぞ。



◇スマイルボックス委員会 - 富岡副委員長



・大寒近し！1 月 20 日健康管理を大切にし風邪等ひかないようにね。富岡、岩元、後藤、渡辺(勉)、金成、嵐各会員及び高萩会長、渡邊(國)副幹事
・出席奨励賞ありがとうございます。秋山、荒川(清)、榎田、本間、遠藤各会員
・しばらく休んでごめんさい。 兄玉副会長
・本日早退ごめんさい。 小熊、佐藤(政)各会員
・前回休んでごめんさい。

川口、佐野、斉藤、鈴木(雅)各会員

◎ガバナーエレクト事務所



～鈴木修一郎次期地区幹事
先程、富澤幹事よりお話がありました通り、地区の 2013 - 2014 年度の組織について現在承諾をお願いしているところです。また、2 月 9 日に小名浜オーシャンホテルにおいて地区リーダー研修セミナーが実施されます。集まって頂く方はバストガバナーの皆様、次期

出席状況 正会員数 51 名
本日の出席率 75.00%

本日出席会員数 33 名
修正出席率 84.09%

分区ガバナー補佐、地区の 8 つの委員会の大委員長・小委員長の皆さんになります。現在渡邊公平ガバナーエレクトがサンディエゴへ行っております。帰国するのが 21 日ですので R I 会長さんのお話を聞かれた渡邊公平ガバナーエレクトが次期年度にどのような方針を進めるのかご理解いただく為の会議になります。2 月 23 日、24 日に開催される会長エレクトセミナーの準備も兼ねております。来年会長になる会長エレクトセミナーをオーシャンホテルで行う予定です。6 月までが次年度の準備期間ですので P E T S、地区協議会等いろいろございますが会員の皆様の絶大なご支援・ご協力をお願いします。

◎会員卓話 - 第 48 代会長 遠藤 嘉一 会員



私の生い立ち(2)

(私がいわきに来た理由)

私はロータリー歴が浅く私だけの思い出はありません。「平成 7 年に入会した貴方は何故、京都からいわきに来たの？」とよく聞かれます。そのわけは、6 年前に卓話(1)でお話しましたが、戦後満洲から引き揚げ、母方の故郷京都に住むようになりました。父はシベリアで抑留、母は私 12 才を頭に子供 5 人を連れて大変な苦労をして帰国しその後父は昭和 22 年秋舞鶴に帰国しました。昭和 21 年小学校 6 年に編入、1 年以上の空白のままでした。昭和 22 年 6. 3. 3 の新制中に 6 小学校区 13 クラスのマンモス校へ通いました。祇園の花街、寺、住宅地、各種の職業の友人達と出会いましたが帰国後の父は職業が不安定で勤めた会社も倒産、母の仕事で生活し大貧乏の時期でもありました。昭和 25 年洛陽工業高校工業化学科に入学しましたが朝鮮戦争勃発で大学進学は無理だろうと思い、何か特殊技術を得たいと考えました。化学を選んだのはたまたま理科の先生が好きで成績が良かったからで日本は化学工業が主流であると思ったからです。京都には大都会でありながら工業高校は 2 高校、洛陽と伏見しかありません。化学は 40 人の 1 クラスで大変な競争だったらしいです。試験はアチーブメントテスト、一般学力と知能テストがあり語り草になるほどレベルの高い生徒の集まりだったようです。部活動は野球部に入りました。洛陽工はその年の春、選抜で甲子園出場し、部員が 50 人位いて深見投手、岡本伊佐美等凄いのが大勢居ました。とても、レギュラーには無理と軟式野球部に入部しましたが軟式野球部がまた強くて京都の強豪で硬式からの好選手が居て朝から晩まで野球漬けの毎日、3 年生秋の国体まで続きました。昭和 28 年大学へ進学を目指すことになりました。我が家の生活も少し余裕がでて進学を考えました。父は満鉄という官僚社会で学歴の必要を痛感していたようです。ただし、経済面から、通学可能な国立である

ことが条件でした。3 年生秋から受験準備を始めましたが、自分の学力不足に愕然としました。もともと進学を目的にしない工業校なので、国語 3hrs / w 漢文古文無し、英語 3hrs 世界史日本史なし、授業の成績が良ければ大丈夫だろうとの認識が間違いで基礎学力が不足の上、遊んでばかりでは箸にも棒にもかかりませんでした。当然の事ながら、問題の内容も覚えていない程何も出さず勉強ばかりしていた級友たちは、一期校に多勢入学し、私は遊んでばかりいたので止むを得ないと思いました。勉強漬けの 1 年を過ごし国立大は I 期校、II 期校に分けて入試をしました。昭和 29 年京都工芸繊維大繊維化学科に入学、模擬試験等から今度は大丈夫と考えた一期校にまたも失敗し、もしもの、二期校に合格しました。京都には理工学系公立は二校しかなかったので受験失敗の原因がストレスに弱い性格にあるのではと思っています。ですから、前夜には一睡も出来ない状態でした。しかし、繊維化学専攻は望んでいた方向でした。日本の産業の主流であった木綿、羊毛、絹の天然繊維の紡績業がナイロンを主とした、テトロン、アクリル等の合成繊維の方向に進んでいました。花形産業の人絹は敗退。挫折と屈辱の仲間ばかりの同級生、競争率 25 倍、欠席が多く即戦力、実務者養成の専門校でした。4 年目は卒論実験に没頭していました。4 回生の秋に就職先が決定しました。卒論担当の教授が全権限を持ち、時代の波に乗っていた合成繊維関連企業で寄取り見取りで先輩たちの行く先から十大紡の社 (T O P 級) に決めていましたが、その年採用取りやめとなり行く先が無くなりました。すると、十大紡の下の方の呉羽紡績から二人採用したいと申し入れがあり、常務の面接を受けて合成繊維をやりたいとの希望から呉羽化成に入社するよう薦められました。待遇は呉羽紡績と同じという話でしたが違っていました。工場は福島県錦と兵庫県池田に在り、クレハ紡績東京で内定書を買ってから、「池田は閉鎖、勤務地は錦だよ。」と言われがっかりしました。福島には、雪と熊のイメージしかなかったからです。実は昭和 33 年 4 月本社での入社式を終え、勿来駅に降りて田圃の向こうに工場群を見たときの、初めて都会を離れる悲しさ。これが私の福島にやってきた経緯です。希望の合成繊維に配属され、塩化ビニリデン、繊維としては使えない高分子をその特徴を生かしてクレハロンフィルム、更にクレラップの商品開発に取り組みました。製造技術の難しさと用途の特殊性から何処も手がけない部門です。以来 55 年、この土地にすっかり住み着きました。このいわきは熊も居ないし、雪も降りません。地震は想定外でしたが、気候温暖、食べ物も美味しいし人柄も良いです。ロータリークラブの皆さんとも出会い、大勢の人々に知り合えました。最高です。この土地に来て良かったと心から思っています。